

平成 26 年度 東京都内湾水生生物調査 11 月成魚調査速報

●実施状況

平成 26 年 11 月 19 日に成魚調査を実施した。天気は快晴で、気温 13.4～15.3℃、北寄りの風 1.8～7.6m であった。調査当日は中潮で、干潮が 8 時 41 分、満潮が 14 時 36 分であった(東京都港湾局のデータ)。調査当日の透明度は 3.2～5.0m であり、全地点とも、赤潮状態ではなく、夏季の貧酸素状態は解消されていた。全地点で生物の回復傾向が確認され(小型のエビ、カニ類が出現した)、魚類の出現の有無は、貧酸素水塊解消後の生息域回復が未だ途中であるためと推察された。

	St.25	St.35	St.22	St.10
作業時刻	8:51-9:27	9:40-10:14	10:37-11:07	11:18-12:03
水深(m)	15.4	25.5	14.4	8.8
天候	快晴	快晴	快晴	快晴
気温(°C)	13.4	13.6	14.2	15.3
風向/ 風速(m/sec)	NNW/7.6	N/5.4	NNE/7.3	NNE/1.8
水温(°C)	16.3 18.8	16.7 17.6	16.7 18.7	17.1 17.1
塩分(-)	30.2 33.6	31.5 34.1	31.1 32.2	30.1 31.8
透明度(m)	3.4	5.0	4.9	3.2
DO(mg/L)	6.7 4.6	6.8 4.8	6.6 5.3	5.7 5.3
DO飽和度(%)	82.0 59.5	83.9 62.2	82.2 67.9	71.3 66.8
波浪(m)	0.3	0.5	0.6	0.2
pH(-)	7.9 8.0	8.0 8.0	8.0 8.0	7.9 7.9
水の臭気	なし(上下層とも)	なし(上下層とも)	なし(上下層とも)	なし(上下層とも)
備考				

上段:表層 0m 層 下段:海底面上 1m 層

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.25	St.35	St.22	St.10
魚類	シログチ(r) アカエイ(r)	なし	なし	マゴチ(r) コショウダイ(r) ギマ(r)
魚類以外 (目立った種)	エビジャコ属(+) スナヒトデ(+) サルエビ(r)	エビジャコ属(+) シヤコ(+) スナヒトデ(+)	サルエビ(r) シヤコ(r) スナヒトデ(r)	エビジャコ属(+) ホンビノスガイ(r) サルボウガイ(r)
備考	上記の他、クシノハクモヒトデ、スナヒトデが採取された。 二枚貝の死殻(トリガイ、チヨノハナガイなど)も目立った。	上記の他、小型のカニ類や、ゴカイ科が採取された。 二枚貝の死殻(タイラギ、トリガイなど)も目立った。	上記の他、エビジャコ属、クシノハクモヒトデが採取された。 二枚貝の死殻(タイラギ、トリガイなど)も目立った。	上記の他、ハタタテヌメリ、サルボウガイが採取された。 二枚貝の死殻(ホンビノスガイなど)が大量に採取された。

注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

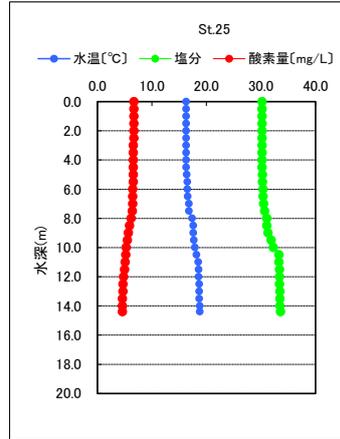
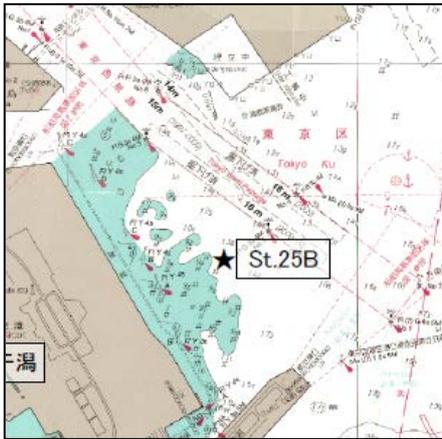
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+ :5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.25

調査地点位置

水質状況

地点状況



西側には東京国際空港が見える。管制塔の奥に見えるのは富士山。

採取試料

海底付近の貧酸素状態は解消されていた。



主な出現種



東京湾で最も普通にみられるエイの仲間である。胸鰭(えいひれ)で海底をあおいで掘り起こして、隠れている甲殻類などを食べる。尾部の毒棘は大変危険。



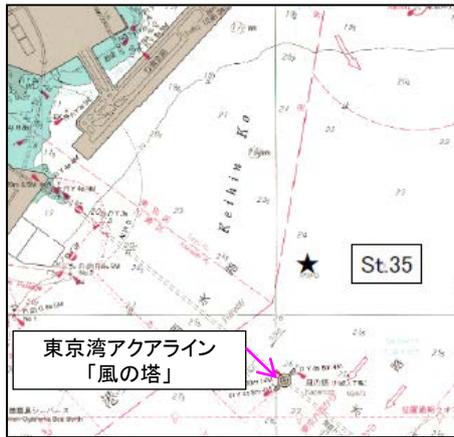
東京湾では、イシモチとよばれ、底曳網などで漁獲されている。泥底～砂泥底に生息し、幼稚魚は湾奥の干潟域や砂浜海岸などの浅所で生活する。



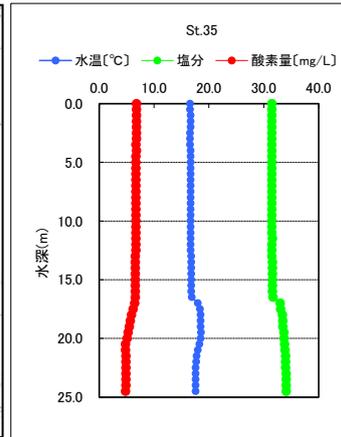
東京湾で最も普通にみられる小型のクルマエビの仲間である。内湾の砂底～砂泥底に生息する。7～8月が産卵盛期であり、9～10月が稚エビの加入時期と推定されている。

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

海底付近の貧酸素状態は解消されていた。

採取試料



主な出現種



東京湾では水深 15~30m の泥底にすむ。肉食性で甲殻類、多毛類等を捕えて食べる。産卵期は4~9月であり、貧酸素状態の解消後に加入したと考えられる。



内湾の砂泥底に生息し、魚類の稚魚などを捕食することが知られている。



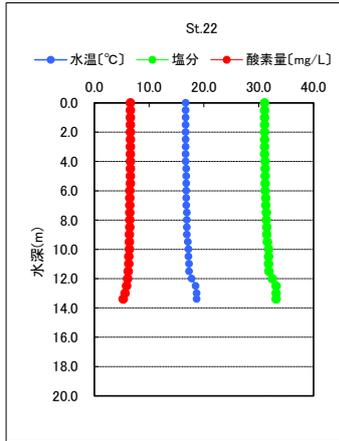
内湾の砂泥底に生息する大型のヒトデの仲間である。砂泥中の小動物や小型の貝類を食べる。移動速度は速く、砂泥上のすべるように移動する。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



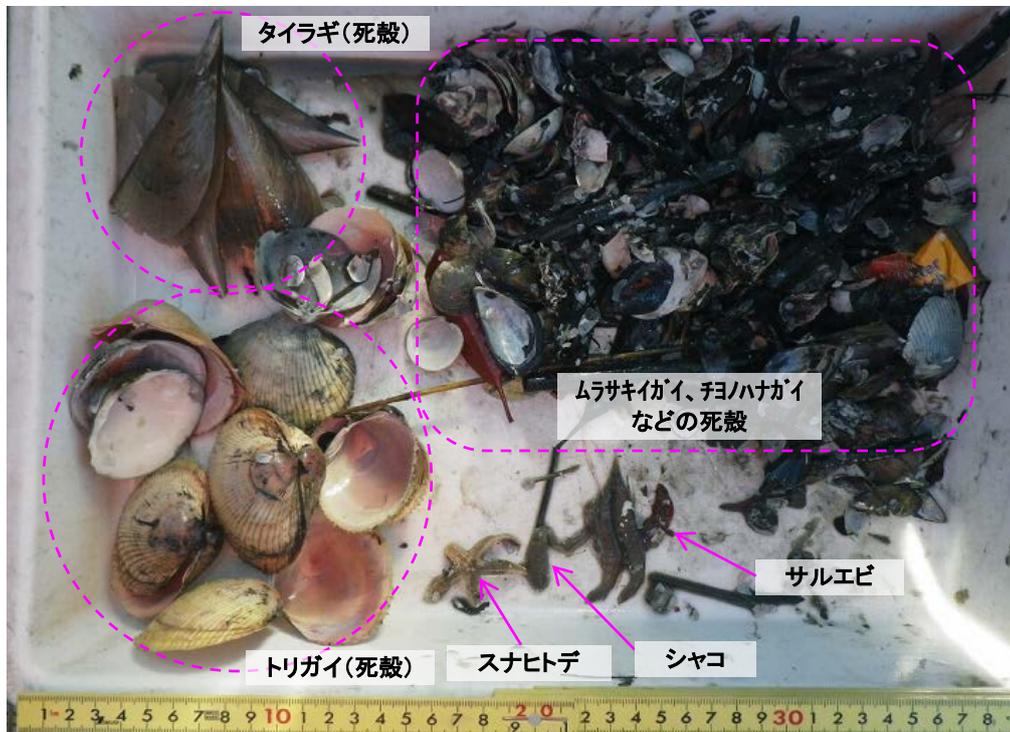
地点状況



北側には東京ディズニーリゾートが見える。

海底付近の貧酸素状態は解消されていた。

採取試料



主な出現種



※サルエビの解説は St.25 を、シャコとスナヒトデの解説は St.35 を参照。

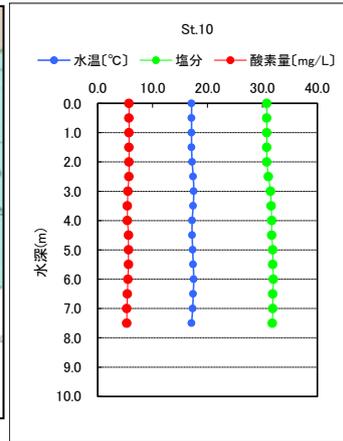
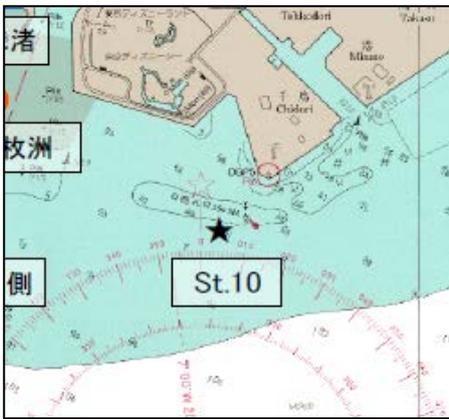
盤(体の中心部分)の直径は 8mm 程度になる。内湾の泥底に多くみられ、腕を振って移動する。

調査地点：St.10

調査地点位置

水質状況

地点状況



北側には、東京スカイツリーや東京ディズニーリゾートが見える。写っているのは調査船。

海底付近の貧酸素状態は解消されていた。

採取試料



採取物:ホンビノスガイなどの死殻が多かった

主な出現種



マゴチ(若魚)

内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。稚魚は干潟域等の浅所で生活し、成長とともに深い場所へと移動する。砂泥底にひそみ、底生生物や小型の魚類を餌としている。



コショウダイ(若魚)

沿岸の岩礁域や砂底域に生息する。幼稚魚は、干潟域などの浅所で、夏から秋にかけてみられる。幼稚魚は、尾鰭以外は褐色で、枯葉に擬態していると考えられている。



ギマ(若魚)

1995 年頃から東京湾の各地で確認が相次いだ。全長 1~5cm 程度の仔稚魚が干潟域などの浅所に、夏から秋にかけて出現する。より大型の個体は、やや深い場所で採集される。